

磁場観測結果から推察される
2014年噴火に伴う地下温度状態の
変化について

2017/2/27

宇津木充

まとめ

- 新たな解析手法の導入で、従来手法では明瞭に見えなかった細かな磁場変化の様相が見えるようになった。
- 2014年11月の噴火開始前(10月末)から消磁傾向の顕著な磁場変化が始まる。その後この変化は噴火開始後の12月中旬まで続く。一旦変化の傾きは鈍くなるがその後1月初旬から再度消磁が進行する。2月初旬以降は傾きが緩やかになる。
- 2014年10月から2015年4月の期間を、磁場変化の傾向からA～Dの4つに分け、それぞれの期間における磁場変化源位置をグリッドサーチで求めた。その結果、期間Aでは火口底の地下約150m、Bで50m、CおよびDで火口底の直下にソースが求められた。